

# ミサイル防衛はいらない 東北アジアを非核地帯に

## ポイント① ミサイル防衛 (MD) とは？

ミサイル防衛 (MD) とは、敵国が発射した弾道ミサイルに対して、自国の迎撃ミサイルを発射して、空中で撃墜するシステムです。現在、米国と日本が開発と配備を進めています。

弾道ミサイルは、宇宙ロケットの先端に爆弾や核兵器、生物兵器や化学兵器を搭載したようなものです。ミサイルは発射後、①上昇から大気圏離脱、②大気圏外の慣性飛行、③大気圏再突入から着弾——という3段階で飛来します。

これに対してミサイル防衛は、敵の弾道ミサイル発射を軍事衛星や高性能レーダーで確認、①の段階では飛行機搭載のレーザー光線砲で撃墜、②の段階ではイージス艦から発射したSM3ミサイルで撃墜、③の段階では地上から発射したPAC3ミサイルで撃墜——を想定しています。

## ポイント② 日本のミサイル防衛は？

米国は自国領土以外では、韓国と日本にミサイル防衛システムを配備しています。日本では横須賀を母港とするイージス艦4隻にSM3ミサイルが搭載されています。日本海では複数のイージス艦が北朝鮮のミサイル発射を警戒しています。青森県の車力には、北朝鮮監視のXバンドレーダーを設置しています。嘉手納基地には、PAC3ミサイルが展開しています。

自衛隊のミサイル防衛も、急速に進んでいます。海上自衛隊は、イージス艦4隻をSM3ミサイル搭載用に改修します。航空自衛隊は、PAC3ミサイルを16高射隊分配備する予定です。07年12月にはSM3搭載改修を終えたイージス艦こんごうが、米海軍と共同でミサイル迎撃訓練を実施しました。航空自衛隊も訓練で、PAC3車両を新宿御苑に展開させました。

## ポイント③ SM3ミサイルの性能は？

久間章生・防衛大臣 (当時) は07年6月、弾道ミサイル攻撃に対して「今のMDシステムで99%排除できる」と発言しました。「SM3で9割以上迎撃、外れた1割をPAC3が撃つ確率が9割」とのことです。ミサイル防衛は完璧なシステムなのでしょうか？答えは「NO」です。

米軍はSM3ミサイルの迎撃実験に14回成功しています。しかし実験は、いつ・どの方向に発射するのか分かっており、ミサイル弾頭も通常より大きく、飛行角度も緩やかです。

実戦では敵国が、いつ・どの方向に発射するのか不明です。一度に大量のミサイルが発射されること、おとりのミサイルが使われることも想定されます。現在の実験は、バッテイングセンターで直球・低速のソフトボールを打つ様なものです。



●写真は米海軍イージス艦が、SMミサイルを発射したところです。イージス艦の前後には数十発のミサイルを収納するサイロがあり、SM3はそこから発射されます。米海軍は現在、横須賀港に9隻のイージス艦を配備していますが、そのうち4隻はSM3ミサイルを搭載しています。また海上自衛隊も、保有するイージス艦4隻をSM3対応に改修する計画です。

## ポイント④ P A C 3 ミサイルの性能は？

P A C 3 ミサイルの性能は、どうでしょうか。防衛省はイラク戦争で、P A C 3 ミサイルはイラクが発射したミサイルの完全迎撃に成功した、としています。実際に米軍は、イラクから発射されたミサイル14発に対して、20発のP A C 2と4発のP A C 3を発射し、P A C 3は全弾命中しました。

ところが、P A C 2・3が撃墜したのは、射程距離150～200 k mのアバビルミサイルだったようです。一方、日本が危険視している北朝鮮のノドンミサイルは、射程距離1,300 k mと考えられています。射程距離が長いほど、落下速度が速く、落下角度も急になります。射程距離の短いアバビルミサイルの迎撃に成功したからといって、射程距離の長いノドンミサイルの迎撃に成功するとは限りません。

そもそも米国は、P A C 3によるノドンクラスの本ミサイルに対する迎撃実験を行っていないのです。

## ポイント⑤ 北朝鮮の本ミサイルの本数は？

軍事用語に「飽和攻撃」という言葉があります。防御側が保有する防衛兵器の本数に対して、攻撃側がその本を上回る攻撃をかければ勝利するという意味です。

在韓米軍司令官は、北朝鮮は、韓国を射程にするスカッドミサイル600発と、射程1,300メートルのノドンミサイル200発を保有するとしています。北朝鮮と戦争すれば200発のノドンミサイルが日本に飛んできます。99%排除のためには、200発以上のS M 3 ミサイルが必要です。

では、日本は何発のS M 3 ミサイルを保有しているのでしょうか。防衛省は、自衛隊が保有するS M 3 ミサイルの本数を明らかにしていません。しかし国会での議論などを調べてみると、S M 3を9発搭載するイージス艦を4隻保有する計画のようです。

北朝鮮の本ミサイル200発に対して、自衛隊は36発ですから、とても、たちうちできません。99%排除は、国民に対する大うそです。

## ポイント⑥ M Dが防衛費を圧迫する？

防衛省は当初、ミサイル防衛システムの整備費用は5,000億円としていました。しかし、計画が始まった04年度から07年度で既に5,567億円を使っています。今後もさらに1兆円以上が必要な見通しです。

これ以外にも防衛省・自衛隊は、在日米軍再編のための費用3兆円を負担しなければなりません。ミサイル防衛の初期配備期限は2011年、米軍再編の期限は2014年です。あと7年の間に、4兆円のお金を捻出してミサイル防衛と米軍再編を進めなければならないのです。

日本の防衛費は年間で約5兆円です。しかし、人件費や借金を除いて自由に使える額は1兆円程度です。そのうちの6,000億円近くがミサイル防衛と米軍再編に使われてしまえば、自衛隊は新規の兵器購入はおろか、訓練にさえ事欠くようになってしまうのです。

自民党議員・防衛省官僚・高級自衛官……。彼らが国防を真面目に考えているか疑問です。

## ポイント⑦ 落下物はどうなるの？

S M 3は大気圏外で迎撃をするので、爆発したミサイルの破片が地上に落ちることを心配する必要はありません。ところが、P A C 3の場合は、地上から最大でも20 k m程度の高さで迎撃します。弾道ミサイルに核兵器が搭載されていた場合、迎撃に成功すれば核爆発は起ismせんが、核物質は空中に拡散します。生物兵器・化学兵器の場合も同様です。

弾道ミサイルの弾頭部分は直径が1 m以上ある円錐形です。またP A C 3 ミサイルは直径40 c m・全長5 mです。この両方が空中で激突すれば、その落下物だけでも大きな被害を生みそうです。こうした疑問に対して防衛省は「弾道ミサイルに対して、P A C 3で迎撃すれば、その破片は落下し被害が出る。それは間違いない。しかしどの程度の被害かは、不明である。」としています。政府や自衛隊・米軍基地を守るために、その手前で撃ち落して、民有地に墜落させるのが、P A C 3の仕組みなのです。

## ミサイル防衛を日本に勧める 米国の思惑

日本がミサイル防衛の導入を決めたのは、米国政府から強く迫られたためです。米国はなぜ、日本にミサイル防衛の導入を迫るのでしょうか。以下は、「米国ミサイル防衛局」のサイトの中にあるQ & Aコーナーからの抜粋です。

**Q. SM3 ミサイルは、国際的な販売に利用できますか？**

**A. はい。日本は、イージスBMDとSM3 ミサイルを手に入れる、最初の同盟国です。海上自衛隊への最初のイージスBMDの導入は、2007年後半の予定です。**

**Q. 同盟国（特に日本）は、ミサイルの生産コストを負担するのですか？**

**A. 外国軍隊販売規則は、同盟している国際的顧客に対して、兵器生産に関わる全てのコストの負担を求めています。入手量の増加は、最終的には生産コストを下げて、米国政府の利益になります。**

● 「Missile Defense Agency」

<http://www.mda.mil/mdalink/html/mdalink.html>



● 07年12月17日、海上自衛隊のイージス艦こんごうはハワイ沖で、外国軍隊として始めて、SM3 ミサイルの発射・迎撃訓練を行い、成功しました。

日米両国の防衛関係者のご満悦な写真は、「米国ミサイル防衛局」のニュースを飾りました。

米国にとって日本は、非常にいい「顧客」なのです。



## 防衛省・自衛隊のミサイル防衛計画

### ■PAC3 ミサイル部隊の配備

● 06・07年度 関東地方 第1高射群

第4高射隊	(埼玉県・入間基地)	1個
第1高射隊	(千葉県・習志野基地)	1個
第2高射隊	(神奈川県・武山基地)	1個
第3高射隊	(茨城県・霞ヶ浦基地)	1個

● 08年度 東海地方

高射教導隊	(静岡県・浜松基地)	2個
第2術科学校	(静岡県・浜松基地)	2個

● 09年度 中部・近畿地方 第4高射群

第12高射隊	(滋賀県・饗庭野基地)	1個
第13高射隊	(岐阜県・岐阜基地)	1個
第14高射隊	(三重県・白山基地)	1個
第15高射隊	(岐阜県・岐阜基地)	1個

● 10年度 九州地方 第2高射群

第5高射隊	(福岡県・芦屋基地)	1個
第6高射隊	(福岡県・芦屋基地)	1個
第7高射隊	(福岡県・築城基地)	1個
第8高射隊	(福岡県・高良台基地)	1個

● 11年度・12年度

定期修理予備用	2個
---------	----

### ■イージス艦へのSM3 ミサイルの搭載

● 07年度から10年度にかけて4隻

「こんごう」	第2護衛隊群 (長崎県・佐世保基地)
「きりしま」	第1護衛隊群 (神奈川県・横須賀基地)
「みょうこう」	第3護衛隊群 (京都府・舞鶴基地)
「ちようかい」	第4護衛隊群 (長崎県・佐世保基地)

※第4護衛隊群司令部は広島県・呉基地

### ■FPS5 レーダーの配備

08年度	鹿児島県・下甕島基地
09年度	新潟県・佐渡基地
10年度	青森県・大湊基地
11年度	沖縄県・与座岳基地

### ■ミサイル防衛関係の予算

04年度	1068億円
05年度	1198億円
06年度	1399億円
06年度補正	76億円
07年度	1826億円

## おさらい

- ①米国はミサイル防衛システムの開発に当たって、実戦を想定した実験は一度も行っていない。そのため、性能の検証は不可能。
- ②SM3やPAC3の命中率が高いとしても、中国や北朝鮮の「飽和攻撃」に対応できるほど配備することができない。
- ③弾道ミサイルを1発でも撃ちもらし、それが核弾頭だった場合の被害は甚大。
- ④弾道ミサイルの全てを撃ち落しても、核物質や生物・化学物質は拡散する。また、ミサイルの残骸が民有地に落下し、被害をもたらす。
- ⑤核攻撃を前提にして、ミサイル防衛システムで国土を守ることは、不可能。

### 新宿御苑でのPAC3関連車両の展開に抗議

防衛省は1月14日夜、東京・新宿御苑にPAC3の関連車両を展開し、ミサイル発射地点としての適応性調査を実施しました。PAC3は通常は基地内に置かれていますが、戦時には都市部に展開します。調査は、PAC3の戦時の展開地点としてどこが適当なのか、その候補地を探すためのものです。防衛省は今回の調査を、「通常の活動であり特定の法的根拠は必要ない」としています。また新宿御苑の管理者からは許可を得ているものの、新宿区や東京都に対しては事前の通告を行っていないとのこと。

PAC3の発射地点適応調査や、その後に行われる展開訓練は、市民の日常生活に戦時を持ち込むものです。その目的が、あたかも戦争が始まるかのような危機意識を市民に持たせること、市民が平和に生活する権利よりも国防を優先させること——にあるのは明らかです。政府の進める「戦争する国づくり」に対して、私たちは強く反対します。

### PAC3の武山基地配備に抗議

自衛隊は1月30日未明、横須賀市武山基地へ、PAC3を搬入しました。深夜にもかかわらず、三浦半島地区労や神奈川平和運動センター加盟の労組、県内の市民運動など、80人を超す人々が抗議の声をあげました。報道では、今回搬入されたのはPAC3発射基車両2台・PAC2発射機車両3台、射撃管制車両、レーダー車両とのことで、発射機車両に搭載するミサイル本体は搬入されなかったようです。ミサイル本体の搬入がいつになるのか、今後も監視を続けなければなりません。



●武山基地前で抗議のシュプレヒコール

## フォーラム平和・人権・環境

東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館 1階

電話03-5289-8222 FAX03-5289-8223

●平和フォーラム [www.peace-forum.com/](http://www.peace-forum.com/)

●STOP!!米軍・安保・自衛隊

[www.peace-forum.com/mnforce/mnforce.html](http://www.peace-forum.com/mnforce/mnforce.html)

## 取り扱い団体